

## 2024年1月7日顕現後第1主日説教

イザヤ書 42 章 1 - 9 節

使徒言行録 10 章 34 - 38 節

マルコによる福音書 1 章 7 - 11 節

新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎えましたが、元旦からいろいろなことのある年の始まりでした。ことに「令和6年能登半島地震」で被災された方々に、深い慰めと励ましがありますように祈りたいと思います。

わたしたちの東京聖三一教会も、1月9日より本格的に聖堂の大規模改修が始まります。教区の活動でも昨日午後按手式があり、新しい司祭が一人誕生いたしました。北関東教区からも教役者の方が参列され、会場となった三光教会が一杯になるほどの方々と共に、新司祭の誕生をお祝いいたしました。困難な事柄があるからこそ、教会から励ましと慰めを伝えることができるように、新しい年も歩みたいと思います。

本日は顕現後第一主日ですが、イエス洗礼の日でもあります。イエス様が洗礼者ヨハネから洗礼を受けられたことを、改めて認識する日です。毎年めぐってくる教会歴の流れではありますが、あらためてイエス様が洗礼を受けた意味を中心に、学んでみたいと思います。

イエス様が洗礼者ヨハネから洗礼受けられた記事は、マタイ、マルコ、ルカ三つの福音書に記されています。しかし、本日の福音書であるマルコ福音書には、イエス様の誕生記事はありませんので、福音書は、「**神の子イエス・キリストの福音の初め**」(マルコ 1:1) と始まり、物語世界でイエス様は、大人となった姿で登場します。そして、最初に行うことが洗礼者ヨハネから洗礼を受けることでした。しかし、それは宣教活動ではなく、むしろ準備に含まれる場面です。宣教活動は、1章14節から「**ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて**」から始まると考えられるからです。

イエス様の洗礼が、宣教活動開始の準備とはいえ、そこには重要な意味があります。洗礼の直後、「**すると、『あなたは私の愛する子、私の心に適う者』と言う声が、天から聞こえた**」(マルコ 1:11) とあるからです。「**声が、天から聞こえた**」とありますが、直訳すれば、「**天から生じた**」です。そして、その声を聞いたのか、イエス様だけか、ほかの周囲の人々も聞いたのか、その点について物語は明確にしていません。ただし、確実に聞いている人はいます。それは福音書を読んでいる(あるいは礼拝で聞いている)読者です。つまり、この部分は、イエス様が、神の子であることが最初に宣言される瞬間なのです(ただし、1章1節の「神の子」という言葉がある写本がオリジナルか否か、また、1章1節を表題のようなものか否かで、見解は分かれます)。もちろん、読者の中には、福音書を読む前に、イエス・キリストは神の子であると知っている人もいます。それゆえ、イエス・キリストが、この場面は、いつ神の子として地上(人間世界)に明示されたか、その問いに答えているといえます。それは、イエス様が洗礼を受けた時であった。そのようにマルコ福音書の物語は示してい

るのです。福音書の中で、最初に書かれたのは、マルコ福音書である、この前提で考えるならば、初期の教会の人々は、いろいろな場面で語られる伝承を除いて、文章として初めてマルコ福音書のこの部分を通して、イエス・キリストが神の子と明示された瞬間を知ったのでした（そののち、物語全体を通してどのような神の子であるかが示されます）。

そのように描いた著者の意図は何であったのか、それは、本日の箇所少し前の5節「そこで、ユダヤの全地方とエルサレムの全住民は、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた」にヒントがあります。この箇所は、字義通りに受けますと解釈が困難です。ユダヤ地方とエルサレムにいるすべての人々が、洗礼を受けに来たと記しているからです。それゆえ、「全地方と全住民」と表現するぐらい多かったことを示していると考えることが妥当です。しかし、この「全」（すべて）という表現が、重要な意味を持っているのです。

この箇所には、洗礼の行列に並ぶという描写はありません。しかし、たくさんの人が集まっても、洗礼を授ける洗礼者ヨハネは一人です。当然、行列となるでしょう。そのように考えますと、イエス様もその中におられたのだらうと想像できます。イエス様は長い行列に並ばれて、他の人と同じく自分の番が来るまで待ち続けた。神殿祭儀という形では救われない人々、救ってもらえない人々が待ち望む、ヨハネの洗礼の列に並んで待ち続けた。この方は特別な方であるが特別ではない。行列に並ぶ光景を想像すると、そのことが示されます。そこに、マルコという物語が、イエス様がどのような神の子であるか、さらにはキリスト（メシア）であるかを示そうとしている意図があります。

わたしたちはイエス様を神の子であると信じて教会に集められます。それは、その神の子が十字架にかけられ、復活される姿を通して愛を示されたことを信じることでもあります。またその愛を、活動された一つひとつ、あるいは教えの一つひとつから信じることでもあります。すでにマタイとルカの物語を知っている私たちは、昨年もクリスマスでその誕生の不思議さから、イエス様が神の子であることを確信しましたが、最初に書かれたマルコ福音書は、誕生物語を描いていません。しかし、イエス様は洗礼者ヨハネの列に並んだのであろうと、推測させる描写を通して、だからこの方を信頼してよいのだ、これがこの方が神の子であることの証なのだ、そう伝えているのです。

わたしたちの国では、元旦早々大地震という苦難がある一年の始まりでした。今も助けを求めている人、不安の中で過ごしている人が多くいます。世界的に見ても、戦争、戦闘があり、苦難の中にある方が多くいます。20世紀、教会は、イエス様は貧しい人、苦しむ人と共におられるということを、改めて『聖書』から発見し、それを強調してきました。それは、洗礼の時からすでに示されていた。本日のマルコの物語は、そのように示していると思います。

そのような方をわたしたちは、救い主と信じています。教会はそのように信じる人の集まりです。わたしたちの教会は、今年、外見を少し新しくします。その器から何を世界に示すのか、それは礼拝を通して示されます。これからも一緒に礼拝を通して、祈り、なすべきことを実施していきたいと思います。